



## 若年層が主体的に海洋ごみ問題を訴求！

今年度も県・地元自治体・環境NPO団体・鯖江市役所JK課と連携した活動を多く実施することができ、県内に幅広く海洋ごみ問題を訴求すべく活動を行った。海洋ごみ問題への関心が薄い若年層へ普及するため、鯖江市役所JK課と連携し「映える」ごみ拾いの写真の出来栄え、そして集めたごみの重量で競う『映えごみ拾い』を実施。年代を超えて各グループが楽しみながらごみ拾いを行うことができた。また同時開催した「JK課フェス」では、JKメンバーが福井県ブースにきた参加者に、海洋ごみの多くが私たちの暮らしの中から発生している事などを熱心に伝えたり、6月に開催した「海洋ごみアクション選手権」では大賞目指し海洋ごみ問題に対して何ができるか考え来場者に伝えるなど若年層が主体的に海洋ごみ問題を発信する様子を今年度は多数みることができた。

その他事業：海洋ごみ出前授業、FUKUI RAYSとの連携、スポGOMI甲子園、スポGOMIWC

### 2024年度 実施状況について

#### <大賞プランは実現に向け県内企業とマッチング！> ふくい海洋ごみアクション選手権



**概要** 県内高校生に向けアクションプランを募集。9チーム22名のエントリーから一次審査会で選出された5チームが決勝進出。決勝は『福井ワール井フェス』ステージでそれぞれの思いをこめたステージプレゼンを行った。プレゼンは同時に生配信を行った。

**目的** 若年層に向けた事業を通して、海洋ごみ問題を自分事化してもらい、意識の更なる浸透のため。

**アピールポイント** 高校生を対象とした事業を行うことで、参加する高校生だけではなく、同じ世代の若者に興味をもってもらうことができた。見事グランプリ受賞したアクションプランは『海洋ごみから楽器を作り、演奏会や楽器の販売をする』というもの。

**効果** 指標とした数字：9チーム22名のエントリー  
検証方法：エントリー数  
見られた成果：現在ペットボトルを原料にした鳴子（鳴海音）の販売やギターの製作。

#### 鯖江市役所JK課オリジナルごみ拾い ～JK課結成10周年フェス



**概要** 8月にごみ拾いとチェキでの写真撮影を組み合わせた「映え拾い」というオリジナル企画のごみ拾いを開催。また「さばえ夏休みのフェスbyJK課」を同時開催。福井県ブースでは、海洋ごみ削減を目指すJK課メンバープロデュースのオリジナル競技「回収ペットボトルdeボーリング」「燃える？燃えない？ごみ分別走」を実施。10月には参加者が仮想して参加するごみ拾いも開催した。

**目的** 楽しんでごみ拾いに参加できる機会を提供し、ごみ拾いへの自主的な参加のきっかけとなるごみ拾いが必要。若年層のアイデアを元にしたごみ拾いを行い、幅拾い層が参加しやすくするため。

**アピールポイント** 10月のイベントにはこども家庭庁長官官房参事官もお越しになり、福井県×JK課の取り組みに大きな関心を寄せられていた。

**効果** 指標とした数字：ごみ拾い参加者100名、フェスの福井県プロジェクトブース来場者100名  
検証方法：来場した方のカウント  
見られた成果：順番待ちが出来た人気ぶりとなった

#### <調査モデル×若年層巻き込みモデル> 県の嶺北を流れる一級河川・ 日野川漂着ごみ調査



**概要** 日野川流域沿い3か所各調査場所でごみを拾い、集めたごみを分別し、個数を調べる。その結果を元にどこがごみが多いのか・どんな種類のごみが多いのかをデータ化していく。

**目的** これまで実施した海岸での大規模調査により明らかになったのは、自分たちの街から出ている割合が多いというデータ。今年度は一級河川を3ヶ所調査し、県民への意識並びに講堂変容を促す。

**アピールポイント** 日野川河川流域（鯖江市）の3か所で行われた調査には、地元の町内の方や福井県立大学先端増養殖科学科、鯖江市役所OG課のメンバーらが参加。若年層を巻き込みながら開催できた。

**効果** 調査①立待地区糺町...251個、調査②豊地区鳥井町...693個、調査③鯖江地区本町2丁目...172個ということがわかった。この結果は今年度の出前授業の教材として使用。11月には一番ごみが多かった豊地区でFUKUI RAYSの選手とごみ拾いを開催した。

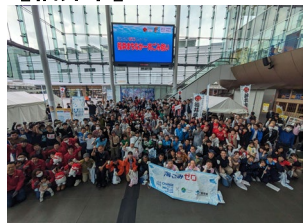
### 海ごみゼロウィーク（清掃活動）

#### 【美浜町】



清掃活動参加人数 20,023人予定

#### 【福井市】



箇所数

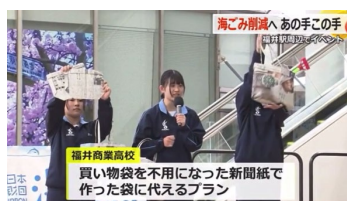
#### 【敦賀市】



314箇所  
（賛井店300店舗含む）

**アピールポイント** 福井県や敦賀市、美浜町など市町やNPO法人、各地域の環境団体と連携することができ、多くの川や海でごみ拾いを実施できた。その中で、多くのごみが生活ごみであることを理解してもらったことができたと感じている。

### メディア露出



メディア露出本数

TV34本（CMは1種類で1と数えた場合）  
新聞2紙 掲載

**アピールポイント** TV告知に関しては、年間1,200本以上放送。「海洋ごみへのアクション」の放送とあわせ、県民へ広く周知できていると感じている。



## 2024年度の課題とこれからの展望

今年度の企画実施を通して、高校生の海洋ごみ問題に対する熱量を感じることができたが、高校生が海洋ごみ問題に対する気持ちはあるが個々の活動となっており、線となる企画が少ないのではないかと考えられる。福井県の高校生に向け、より主体的な活動ができ、協働できる企画を来年度提案していきたい。さらに「鯖江市役所JK課×企業を巻き込んだアップサイクル事業」を展開し、よりJK課を巻き込んだ海洋ごみ問題を自分事化する取り組みを行っていく。